

2019年度  
教員免許状更新講習一覧

【必修領域】

NO	講習名	日程	内容	担当	所属
1	教育の最新事情	8月4日(日)	本講習では、「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども親、教育観等についての省察」、「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)」 「子どもの生活の変化を踏まえた課題」について考え、今日の教育現場での課題についての理解を深めることを目指す。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				島崎 保	(医療保健学部教授)
				照本 忠光	(姫路市教育委員会育成支援課所属)
2	教育の最新事情	8月8日(木)	本講習では、「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども親、教育観等についての省察」、「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)」 「子どもの生活の変化を踏まえた課題」について考え、今日の教育現場での課題についての理解を深めることを目指す。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				島崎 保	(医療保健学部教授)
				照本 忠光	(姫路市教育委員会育成支援課所属)

【選択必修領域】

NO	講習名	日程	内容	担当教員	所属
1	アクティブ・ラーニングを取り入れた英語授業実践	7月31日(水)	学習者を飽きさせることなくモチベーションを高め、教育効果を上げるうえで今や欠くことができないのが、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業運営方法である。この講習では、大学における学習者参加型の授業実践例を紹介し、高等学校の英語の授業にどのような形で取り入れられるかを体験してもらい、講習は実習形式で行い、すべて英語で実施する授業も含む。	初谷 智子	(人間社会学群教授)
				森川 文弘	(人間社会学群准教授)
				山岡 華菜子	(人間社会学群講師)
				ギルバート・ディゾン	(人間社会学群講師)
2	インターネット活用の現状と課題	8月9日(金)	生活基盤となっているインターネットは、ものすごい勢いで変化している。保護者である大人でさえ、十分な理解を持ってインターネットを利用できていない現状において、学校の役割は非常に大きく、常に時代に即した内容について教員自身が知っておく必要がある。本講座では、最近のインターネットの活用動向として、クラウドサービスなどの新しい技術や、SNS等のウェブサービスと個人情報との関係、事例等の紹介を通して、危険を回避する能力を養い、どの様にインターネットの活用方法を児童・生徒に指導していけば良いかを考える。	佐野 智行	(人間社会学群教授)
				園田 浩一	(人間社会学群准教授)
3	小中高の国語教育	8月19日(月)	小学校の授業を中心に、声に出して読むということの大切さや、「詩」という限られた言葉を通して想像力を豊かにする方法を考える。また、中学校から高校の授業を中心に、「短歌を絵にして鑑賞する授業実践」や橋本武氏が実践されたスローリーディングを新聞のコラムで行うとどうなるかの、本学学生との取り組みを紹介して、国語のアクティブラーニングについて考えてみたい。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				後藤 桂子	(姫路獨協大学 非常勤講師)
				竹田 レイ子	(神戸市教育委員会スーパーアドバイザー)
4	小・中・高でのキャリア教育	8月20日(火)	昨今、キャリア教育という言葉が頻りに使用されているが、その殆どが「進学指導・就職斡旋」を意味している。本来は「生き方教育」であり、小、中、高の各機関において、将来どのような人生を送りたいのか、自分にとってやりがいのある仕事は何か等を模索し、自主決定できるよう指導することである。本講座では、校種別にディスカッションし、専門家の提言を頂くことにより、キャリア教育本来の意味を知る事を目的とする。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				後藤 桂子	(姫路獨協大学 非常勤講師)
				芦田 正明	(株式会社ウェルネス研究所 代表取締役)
				後藤 奈々子	(兵庫県立大学所属)
5	学校カウンセリング	8月20日(火)	今こそ誰もがカウンセリング・マインドを備えていることが必須である。生徒の苦しみを聞き生徒の立場になって考え、生徒自身に解決させていく、カウンセリングの基礎を体得しテクニックを習得しながら、生徒の問題解決を援助する方法を探る。カウンセリングは学校教育において重要な役割を果たす時代を迎えている。授業はかつてのような教育的効果をあげることが難しくなっている。学校生活は人間関係に煩雑さを生み、子どもたちの苦悩ははかり知ることができない。これらの問題に何らかの解決への道を示唆することが出来ればと思う。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				島崎 保	(医療保健学部教授)
				井上 光一	(医療保健学部教授)

2019年度  
教員免許状更新講習一覧

【選択領域】

NO	講習名	日程	内容	担当教員	所属
1	身体と文化～人間を考える～	8月3日(土)	本講義では、「身体」および「文化」の2つの観点から、人間が持っている文化心理的行動や身体感覚について教授する。 講義形式とし、午前は「身体感覚」について、「日本・中国・英語圏」の3つで比較し、午後は「ハロー効果」および「プラシーボ効果」について、日本語「聞き耳頭巾」や諸外国の例示を用いて、「信心(心理的感覚)」について講義し、日本と諸外国との相違について学ぶことを目的とする。	奥田 寛	(人間社会学群教授)
2	自己受容とアンガーマネジメント	8月5日(月)	怒りをごまかすでも、排除するでもなく受け入れることでアンガーマネジメントをするアプローチです。自分自身の感情を受け入れることで、児童・生徒がもつ怒りの感情への対処の仕方が変わります。「なんでそんなことで怒るのよ」とか「すぐキレないでよ」と怒りに怒りで対処している状態から解放され、子どもが出した怒りに対して「怒りを出せてよかったね」、「言葉にして教えてくれてありがとう」と思えるようになります。午前中2コマが講義、午後の2コマがワークショップとなります。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				後藤 桂子	(姫路獨協大学 非常勤講師)
				大久保 智弘	(ビジョナリーキャリアアカデミー 代表)
3	ICTを活用した授業教材の利用法	8月5日(月)	学校教育におけるICT環境の導入・整備が進んでいる中で、授業におけるICT環境での教材活用の方・手法について講義演習をおこなう。情報機器やネットワークの整備が進む教育環境で、ICTを活用した授業の事例や演習を通してその有効性や活用方法について考える。黒板とチョークとデジタル化された学習教材の効果的な利用法について具体的な機器操作も含めて実習をおこなう。	佐野 智行	(人間社会学群教授)
				園田 浩一	(人間社会学群准教授)
				野口 義栄	(姫路獨協大学 非常勤講師)
4	学習への動機付け	8月6日(火)	いかにしてやる気を起こすか？簡単なことのように見えて難しい問題である。外国へ行くだけで英語を学びたいと思う、多くの人がそれで言語獲得へ動機付けられると解釈しているがそうではない。動機付けとは、その欲求を実現するための行動・努力が必要だ。従来の研究はそこが抜けている。その言語を獲得するために如何に努力するか、「完璧」は無理かもしれないが、そこまでしてこそモチベーションの定義が当てはまる。そのためにはどうすればいいのか、参考意見を述べながら皆で考えよう。動機付けを達成することは正に人生の自己実現なり。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				島崎 保	(医療保健学部教授)
				井上 光一	(医療保健学部教授)
5	幼稚園教育要領・保育指針の改定と共に考えるホムモノ保育	8月6日(火)	幼稚園教育要領・保育指針の変換の経過から子育てに支援が求められるようになった現代の保育・教育について問題意識を得ながら共に学び合う。また、現場で生かせる保育の理論と実践を学び、いろいろな課題に取り組みながら保育者の姿勢や子どもの発達に寄り添い、乳幼児を理解することを学ぶ。主に講義形式とし、一部に「表現活動」を取り入れる。	保田 恵莉	(医療保健学部准教授)
6	心を開く表現活動	8月6日(火)	最近、大人も子ども、心に仮面をかぶったり鏡をつけて、なかなか本音が言えない状況にあるように思える。そこで本講座では、生徒・保護者・同僚とより良い人間関係を保つために、アサーションやリフレーミングのスキルを身につけて、コミュニケーション能力の向上を図る。また、一行詩の創作により、素直な心を引き出す実践報告をする。これらによって相手の心と自分の心を開くカギを見出すことが本講座のねらいである。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				後藤 桂子	(姫路獨協大学 非常勤講師)
				大久保 智弘	(ビジョナリーキャリアアカデミー 代表)
7	法教育を考える	8月7日(水)	新学習指導要領の告示や、裁判員制度の導入などに伴い、学校教育における「法教育」の重要性は、今後ますます高まっていくものと考えられる。小・中・高の段階において、どのようにして児童・生徒に「法」について教育していくべきかを、公法(憲法等)、国際法、民法、刑事法に関する具体的なケースを素材としながら、ディスカッションやロールプレイを通して、受講者のみなさんと共に模索してみたい。	小林 直樹	(人間社会学群准教授)
				吉原 司	(人間社会学群准教授)
				永田 泰士	(人間社会学群准教授)
				福山 好典	(人間社会学群准教授)
8	クスリが辿る体の中の運命	8月7日(水)	くすりは、反対から読むとリスクになります。くすりに、病気を治してくれる反面、使い方を誤ると危険なものでもあります。そのため、くすりは、正しい薬を、正しい方法で使用することが重要になります。本講習では、くすりの体内での運命(吸収、分布、代謝、排泄)を理解し、この運命が変わった時に生じる変化(相互作用、飲み合わせ)とその予防法について学習し、日常生活ならびに生徒の生活環境に還元することを目指します。	寺岡 麗子	(薬学部教授)
				高良 恒史	(薬学部教授)
				木下 淳	(薬学部准教授)
				高橋 稔	(薬学部助教)

2019年度  
教員免許状更新講習一覧

NO	講習名	日程	内容	担当教員	所属
9	プログラミング教育の現状と展望	8月7日(水)	今日、ICTを活用できる能力は、社会生活にとって不可欠なものとなってきている。そのような社会状況の中で、小学校においてプログラミング教育の必修化が検討されている。本講習では、先行的な取り組み等のプログラミング教育のカリキュラム等の紹介と、子ども向けプログラミング言語Scratchによるプログラミング体験実習を行う。講習を通してプログラミング教育の意義や、各教科でどのように活用できるかを考える。	佐野 智行	(人間社会学群教授)
				園田 浩一	(人間社会学群准教授)
				星野 未幸	(姫路獨協大学 非常勤講師)
10	自然環境への地理学への応用	8月9日(金)	本講習では、「自然環境への地理学への応用」をテーマに、地理学的手法を用いた先史時代を含む過去の時代の地形分布や気候環境の復元例を示すとともに、自然地理分野へのシミュレーション教材の1例として、地すべり調査の方法について説明します。	武市 伸幸	(姫路獨協大学 非常勤講師)
				成瀬 敏郎	(元兵庫教育大学名誉教授)
11	自己受容とアンガーマネジメント	8月10日(土)	怒りをごまかすでも、排除するでもなく受け入れることでアンガーマネジメントをするアプローチです。自分自身の感情を受け入れることで、児童・生徒がもつ怒りの感情への対処の仕方が変わります。「なんでそんなことで怒るのよ」とか「すぐキレないでよ」と怒りに怒りで対処している状態から解放され、子どもが出した怒りに対して「怒りを出せてよかったね」、「言葉にして教えてくれてありがとう」と思えるようになります。午前中2コマが講義、午後の2コマがワークショップとなります。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				後藤 桂子	(姫路獨協大学 非常勤講師)
				大久保 智弘	(ビジョナリーキャリアアカデミー 代表)
12	次期学習指導要領を踏まえた小・中学校における英語教育	8月19日(月)	小学校英語は、2020年度の中学年導入・高学年教科化に向けて移行期に入っている。また、中学校英語も小学校の指導内容を理解した上で、より質の高い言語活動を設定し、授業で実践する必要がある。本講習では、小学校中学年の外国語活動と高学年の外国語科の授業の進め方、また中学校での「英語で進める授業」5つの領域の統合を図った「コミュニケーション指導」生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業について、ワークショップ形式を取り入れた講義で、目的・理論・指導方法を分かり易く講習する。	福岡 章代	(姫路獨協大学大学院言語教育研究科 非常勤講師)
				和田 恵明	(姫路大学 教育学部 教授)
				衣笠 知子	園田学園女子大学 人間教育学部 准教授)
13	アダプテッドスポーツ(Adapted Sports)	8月21日(水)	アダプテッドスポーツ(Adapted Sports)とは、スポーツのルールや用具を実践者の「障がいの種類や状況に合わせたスポーツ」に適合させるスポーツという意味です。本講習では、校種別における健康とスポーツ活動・運動についての考え方を理解し、アダプテッドスポーツを実践することにより特別な支援が必要な子どもを指導することで、インクルーシブ教育にも対応でき、学校現場での適切な指導ができるようにすることを目的とする。	小田 慶喜	(医療保健学部教授)
14	インクルーシブ教育	8月21日(水)	昨今、特別支援学校等と普通学校とを区別する傾向が続いているが、この傾向は決してよいとはいえない。発達障害児と普通児が一緒に勉強することにより、お互いを理解し合い成績も上がっていることが報告されている。「インクルーシブ教育」が叫ばれて日は浅いが、障害を持った生徒を特別な学校等に追いやることなく、共に生活することによってお互いを理解し、双方が前向きに進めることを模索していく。障害児による授業崩壊等の問題もあるが、如何にしてこれを乗り越え、如何にして教師の力量を上げていくか、意見交換していきたい。	照本 忠光	(姫路市教育委員会教育支援課所属)
				進藤 昌浩	(姫路市立瀬中学校所属)
15	スクールソーシャルワーカーに関する講習	8月21日(水)	スクールソーシャルワーカーとは何なのか？学校だけでは解決が難しい問題が山積している今日こそ必要なのが、スクールソーシャルワーカー(SSW)である。教育分野に対する知識に加えて、社会福祉の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた学校、家庭、地域など様々な環境に働きかけてコーディネートし、児童生徒の最善の利益を目指す、それがスクールソーシャルワーカーの基本的な視座である。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				古田 京子	(京都市スクールソーシャルワーカー)
				田邊 哲雄	(湊川短期大学 幼児教育保育学科 准教授)
16	指導現場に役立つスポーツ科学～傷害への知識とその予防等～	8月22日(木)	本講習では、中学校及び高等学校における指導において、スポーツ科学の知識・技術の向上を図ることで、指導方法を安全かつ効果的なものにするを目的とする。スポーツ科学に関する講義だけでなく、傷害予防のためのストレッチングを座学で学んだ後、実際に実践することでより講習の理解を深め、現場において実践ができるような講習とする。	小田 慶喜	(医療保健学部教授)
17	生徒の自尊感情を高めるための教師への支援～道徳性の発展など～	8月22日(木)	生徒の自尊感情を高めるにはどうすればいいのか？高すぎても駄目、低すぎても駄目、適度に高いことが最適であるが、如何にして自尊感情を高めるか？従来の意見では、「褒めて育てる、叱らないことがいいと言われているが、実際に日々の授業の中でどういふことが効果的に自尊感情を高めるか？可能なのか？従来の研究では、「モジュール型授業」が効果的であるといわれているが、他に革新的な音楽教育も自尊感情を高めることが報告されている。不安水準との関係も含めて自尊感情を上げるための方策を考える。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				竹田 レイ子	(神戸市教育委員会スーパーアドバイザー)
18	暮らしの中の数理	8月22日(木)	暮らしの中の身近な問題から、それらの奥に潜む数理を取り出し、真に必要な基礎学力とは何かを考える。 『暮らしの安全を支える一暗号理論と「余り」の数学』、 『学校教育(中学・高校)で扱う確率・統計』、 『オープンソースソフトウェアの活用』 の3つのテーマに取り組む。3つ目のテーマでは、この講習によってオープンソースが学校で有効に活用され、教育現場での仕事の質と効率がより一層向上することを旨とする。	山岸 規久道	(人間社会学群教授)
				秋本 義久	(人間社会学群教授)
				杉山 武司	(人間社会学群教授)

2019年度  
教員免許状更新講習一覧

NO	講習名	日程	内容	担当教員	所属
19	からだを理解する楽しさを学ぶ	8月23日(金)	本講習では、運動不足による生活習慣病の予防を教育現場で展開できるように予防医学の知識を理解し実践することにより、からだを理解する楽しさを身につける。運動生理学の基礎を教育現場に積極的に活かすために①体脂肪の測定によりからだの状態を知る。②運動の強度を心拍数で計測することを理解する。③運動の理解を日常生活で活かす試みを考える。④からだを理解する楽しさをまとめる。などの取り組みを理解し、積極的に実践できる試みを考える。	小田 慶喜	(医療保健学部教授)
20	発想の転換	8月23日(金)	生活指導や教科指導において問題に直面して解決が困難な時、もがき苦しんでいる時、考えを変えてはどうだろうか?「学校とは、校則を守れない生徒が必ず出現するのがごく普通の学校である」とか「学校へ行くのがすべてではない」と考えてみてはどうだろうか?ちょっとした発想の転換によって、問題が解けたり、問題行動が消えたりすることがある。列に並んでいるときに、割り込みをしてきたとき、あなたは何と言うか? $(x-a)(x-b)(x-c)\cdots(x-y)(x-z)=?$	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				三枝 俊也	(学校法人日ノ本学園高等学校所属)
21	生徒指導(生活指導を含む。)	8月24日(土)	昨今の学級経営において、生徒指導の難しさが際立っている。家庭の教育力が低下している中、小学校、中学校、高等学校においていかに指導し、健康的な学校生活を送らせることができるのか、先生方と一緒に考えて考え、議論してより良い考えを導き出すように努める。	平岡 清志	(人間社会学群教授)
				三枝 俊也	(学校法人日ノ本学園高等学校所属)
				横内 恵	(兵庫県教育委員会 播磨西教育事務所 教育振興課所属)